

# 2019年度入学試験問題出題のねらい・解答例 (推薦入学選考)

中村学園大学短期大学部〔幼児保育学科〕

## 【小論文】

### 〈出題のねらい〉

今年度の課題文は、幼稚園の園長が、子どもたちと過ごす毎日の生活のなかで、幼児期の子どもにとって大切なことや、子どもの遊びに対する大人の関わり方について著した文章から出題した。全体的に簡潔でわかりやすい文章であり、内容も理解しやすかったと思われる。筆者の主張を踏まえて、自身の考えを論理的にまとめ、表現できる力を問うことをねらいとした。

### 〈各設問の講評〉

設問一は、昨年度同様、課題文中の文脈に即して、正しい漢字を書き取る問題である。

正解： ①挑戦 ②疲弊 ③奨励 ④転換

全体的に比較的平易であったと思われるが、②「疲弊」については正答率が低い傾向を示した。漢字の読み書き共に、前後の文脈に即して正しい語句を選択できる語彙力をつけてほしい。平成29年3月の音訓の小・中・高等学校段階別割り振り表に基づく各文字の読みの取り扱い学校段階は以下の通りである。小学校に関しては、学習指導要領の「学年別漢字配当表」の掲載学年も示す。

①挑戦	挑(チョウ)：中学校	・戦(セン)：小学校4年
②疲弊	疲(ヒ)：中学校	・弊(ヘイ)：中学校
③奨励	奨(ショウ)：中学校	・励(レイ)：中学校
④転換	転(テン)：小学校3年	・換(カン)：中学校

設問二は、本文の内容を理解し、当てはまる具体例を本文中から抜き出す問題である。解答には正答の主要部に別の箇所表現を組み合わせたものや、オリジナルな文章を追加したものが多数みられた。

設問三は、子どもの「ひたる」行動に対応する大人の取るべき行動を三文字で抜き出す問題であったが、多くの受験生が正解を見出していた。

設問四は、保育者を目指す受験生に対して、子どもの遊びに対する関わり方について、各自の考えをまとめる問題である。多くの受験生が、自らの考えや経験に基づいて筆者の主張に賛同していた。一方、本文の内容を踏まえずに、課題文の最後の一文の人生観、価値観に関わる内容を中心に解答したものも散見された。文章の真意を理解した上で、自らの考えを論理的にまとめ、文章構成し、わかりやすく表現できる力を身につけてほしい。

また、解答の字数について、指定された字数をわずかに上回るものや字数に満たないもの、字数を埋めることが目的となっていると思われる解答がみられたことは残念であった。漢字や送り仮名の誤用、ら抜き言葉の使用もみられたが、このような間違いは、同程度の字数の文章を記述する際、再び繰り返すことが予想されるため、作文の添削を受けることによって自身の思い込みに気づき、誤りを正してほしい。保育現場では文章を記述することが多いため、単に漢字の読み書きだけではなく、日頃から書籍を読む習慣をつけ、正しい文章表現ができるように心がけることが望まれる。